様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　２ 年　 ７ 月 １３ 日現在

機関番号：３４４２３
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2017～2019
課題番号：１７Ｋ０２３９５

研究課題名（和文）演劇によるダイバーシティ活性化因子の抽出と現実の多様性受容に関する深層心理的研究

研究課題名（英文）The depths psychological study on extraction of the diversity activator by theatrical performances and real variety reception

研究代表者
猪股　剛（Inomata, Tsuyoshi）

帝塚山学院大学・人間科学部・准教授

研究者番号：９０３６１３８６

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,400,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、アートや祭礼を通じたダイバーシティの変容を検討したものである。虚構である作品を鑑賞し体験することが、人々の現実を虚構化するのではなく、むしろ逆に現実のとらえ方を多様化することがある。そのような「ダイバーシティ活性化作用」は「教化的作用」や「情動的作用」から生まれるものではなく、「不理解」や「不快感」を抱いた後に、それがゆっくりと軽減されることによって生まれることが明らかになった。つまり、作品がダイバーシティ活性化の役割を果たすには、パフォーマンス後の開放的な対話が欠かせない。作品は難解で高度に抽象的で象徴的であり、その理解に接近していくための道筋が用意されていることが重要である。

研究成果の学術的意義や社会的意義
現代社会は、グローバル化を通じてさまざまな価値観やさまざまな生活習慣が交流する時代を迎えている。本研究を通じて、この時代の多様性を受容し、私たち一人一人が心のダイバーシティを豊かに活性化させていくためには、教育的なプロセスや情動的な共感のプロセスよりも、理解困難さに出会い、その理解困難さからゆっくりと理解に向かう筋道が見てくることが重要であることが明かになった。すなわち、社会においてダイバーシティが活性化し、社会そのものが多様で豊かなものとなるには、まずは不理解を認め、そこから理解へのプロセスが開かれ、時間をかけて未知のものと共にあることが必要であると提言することができる。

研究成果の概要（英文）：This study examined transformation of the diversity through art and ritual. The appreciation of the works as fiction does not makes our reality into a fiction, but it diversify the way of our experiences of reality adversely.Such a "diversity activating action" did not come out of "action of teaching and civilizing it" and "emotional empathetic action", bit it became clear to be born by reduced "non-understanding" and "unpleasantness" slowly. In other words, the communicable talks after performances are indispensable so that it plays a role as the diversity activation.At first works are difficult and highly abstract or symbolic, then it is important being prepared a route to access the understanding.

研究分野：臨床心理学

キーワード：ダイバーシティ活性化　教化的作用　情動的作用　現実性　現実感覚の変容　理解へのプロセス

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

ダイバーシティの研究は主として経営学や社会学において、マイノリティの受容や、国籍や人種の差異の受容、性的な差異の受容、そしてそれによる社会の再活性化を目的として行われてきた。それらはそもそも既存のカテゴリー間にある差異を取り上げて、目に見える差異を認識するところから始まっている。しかし、本来ダイバーシティ/多様性とは、現実には理解されず認識されないままに見過ごされているものが多く、カテゴリーとして明確に分類できない。そのような看過されがちな本質的なダイバーシティこそが演劇が対象とし、作品として提示してきたものであろう。演劇の定義にはさまざまなものがあるが、この現実に潜む隠された多様性を浮かび上がらせ、日常的な現実の中に潜む多様性を活性化させることが演劇の主要な機能の一つであるといえる。それは古くはB.ブレヒトの教育劇やW.ベンヤミンの哀悼劇研究に始まり、近年ではE.フィッシャー=リヒテの「パフォーマンスの美学」や H.T.レーマンの「ポストドラマ演劇」によって明らかにされてきた。

一方で本研究代表者である猪股は「演劇的現実体験を通じた実生活上の意識変容に関する深層心理的研究(基盤研究(C)平成 26-28 年度)」において、演劇的な現実体験による意識変容のあり方について深層心理学的な研究を進め、演劇的な現実体験が心理学/人類学的なイニシエーションとしての機能を果たし、儀礼としてのイニシエーションが成立しなくなった現代において、心理臨床面接と共に現実体験の深化に寄与し、一面的で固着的な現実理解を揺るがし現実を活性化するものであることを明らかにした。

このような先行研究を踏まえた上で、演劇的な現実体験を再検討し、それがもたらすイニシエーションの内容的かつ質的な側面に注目すると、そこには現実のダイバーシティを活性化する機能があることが明らかになってくるわけだが、しかし一方で、その演劇的現実体験のどのような要素がダイバーシティの活性化をもたらす因子となっているのかはまだ明らかではない。そこで本研究においては、この現実のダイバーシティを活性化させる因子を抽出し、現実に変容と多様化をもたらす演劇の機能を精査することへと研究を発展的に展開させていく。

２．研究の目的

本研究の目的は、第一に、演劇を通じた現実体験が持つダイバーシティを検討することにある。ある種の虚構である演劇やアート作品を鑑賞し体験することが、人々の現実を一つの虚構の現実に集約させる場合と、むしろ逆に現実のとらえ方を多様化し、虚構的な現実に留まらず、広がりのある多様な現実の受容を促す場合がある。この現象に注目し、演劇的なダイバーシティの活性化がどのような要素により達成されていくのかを深層心理学の現実性の概念を基盤に据えて調査・検討する。第二に、その多様な現実体験を、地域の祭や儀礼などの人類学的体験や、精神分析や心理療法における心理臨床体験や、劇場外でのパフォーマンスやツーリズムとも結びついた参加型アートでの現実体験と比較検討し、演劇的と呼ばれる現実体験の他領域への広がりを調査すると共に、それらの演劇的ダイバーシティの活性化における有用性を明らかにし、社会における多様性の受容と社会の活性化に資する新たな深層心理学的・演劇的な観点の提言・発信を目的とした。

３．研究の方法

本研究は三年計画で実行された。初年度は、演劇を鑑賞した鑑賞者へのインタビューおよび質問紙による調査を実施すると共に、制作者や出演者へのインタビュー調査を中心に実施した。その際に、特に鑑賞を通じて教化的な作用があったのか、現実のダイバーシティが活性化されたのか、という対照点を基軸とし調査を行い、同時に心理学的な現実概念を基盤に据えた心理的身体的な体験について質的な分析も進めた。また研究者が観劇を通じて、その体験を質的に調査し、それを深層心理学的に批評し言語化することも進める。二年目は、一年目に得られた因子の信頼度を高めるために、引き続き演劇体験の調査と分析を進めた。また研究分担者と共に人類学分野での調査、臨床心理学分野での調査、劇場以外のアート・パフォーマンス分野での調査を進め、演劇分野での結果と比較検討を行っていった。またそれぞれの分野からの相互フィードバックを繰り返し、その因子の比較検討を行うとともに、研究会議を開きダイバーシティ活性化因子の精査を行ってきた。その中で、情動的な共感因子が取り出されることになったが、これは通常考えられていたような理解を深める作用は持たず、同質性理解を促進するものであることも確認されていった。同時に海外における比較調査と研究会議も行い、二年目の後半からは、結果の一部を研究者に公開し、議論の場を広げて討議を重ねた。最終年度は、調査研究作業を継続すると同時に、ダイバーシティ活性化の因子とその有用性を明らかにすると共に、公開シンポジウム・国内および国際学会を通じて世に問うてきた。

４．研究成果

(1)初年度は、当初の計画通り、ダイバーシティとその演劇性に関する調査と資料収集、そして基礎的研究を実施した。特にフィールドワークでは、いわゆる体験型演劇の鑑賞によるダイバーシティ活性化の分析と、春日大社若宮おんまつりや西馬音内盆踊りといった演劇性の高い祭礼によるダイバーシティ活性化因子の比較検討を進めた。調査因子としては「教化的作用」と「ダイバーシティ活性化作用」という対照基軸を置き比較検討をすすめ、それらがいわゆる深層心理学的な無意識要素の活性化とどのように関わっているのかを調査した。意識的な理解の試みが

頓挫した時に動き出すものとして「ダイバーシティ活性化」因子が明らかになり、その成果は学会において発表された。特に、「共感と共振の差異」や「有用性と興味の差異」に注目点が置かれ、演劇においても精神分析においても使用されるドイツ語の Lehre という概念の持つ二律背反性が、いわゆる知識の伝授ではない自己探索的な教育の可能性を示し、ダイバーシティの活性化のキーワードとなった。
(2)二年目は、初年度の研究成果を踏まえドイツにおけるホロコースト施設の持つ演劇性やコンテンポラリーアート施設におけるアーティストによるアートツアーの持つ演劇性を調査対象として研究を進めてきた。「ダイバーシティ活性化」因子は、理解から生まれるのではなく、むしろ理解できないことが明らかになって初めて活性化する結果となってきた。「共感と共振の差異」が明確になり、従来有用とされてきた共感性が、同質なものの理解には役立つが異質なものの理解には作用することが少ないことが明かになった。
(3)最終年度において、今までの研究成果が集約され「春日大社若宮おんまつり」や「西馬音内盆踊り」「出羽三山修験の秋の峰」といった演劇性の高い祭礼によるダイバーシティ活性化因子の比較検討と、ドイツにおけるホロコースト施設の持つ演劇性の研究、そしてコンテンポラリーアート施設におけるアーティストによるツアー・パフォーマンスの持つ演劇性の研究を、相互に比較研究を行ってきた。「ダイバーシティ活性化」は、理解から生まれるのではなく、「不理解」や「不快感」を抱いた後に、その軽減によって生まれることが明らかになった。研究成果は、「共感と共振の差異」や「他者性との出会い」に注目を置いた発表と、西洋と東洋のダイバーシティ受容の差異に注目点を置いた発表点、そしてミクロコスモスへの注目がマクロ的な世界におけるダイバーシティを活性化する点に注目点をおいた三つの発表などを行ってきた。これに加えて、ホロコースト記念碑やホロコースト施設における演劇性の研究から、死者としての他者との対話を心理学的に批評し言語化してきた。この研究は書籍化が進められ、2020 年 10 月に発刊予定となっている。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計14件（うち査読付論文　8件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　1件）

１．著者名 Yasuhiro Tanaka	４．巻 65-1
２．論文標題 “On the relationship between the sense of self and the structure of dreams examined through questionnaire research for Japanese university students”	５．発行年 2020年
３．雑誌名 Journal of Analytical Psychology	６．最初と最後の頁 63-74
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 Tsuyoshi Inomata	４．巻 21
２．論文標題 “The diversifying soul through the encountering with Other”	５．発行年 2019年
３．雑誌名 Proceedings of the 21st Congress of the International Association for Analytical Psychology	６．最初と最後の頁 215-218
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 Tsuyoshi Inomata	４．巻 20
２．論文標題 "Self and Other: Is it occultism, philosophy or psychology"	５．発行年 2017年
３．雑誌名 Proceedings of the Twentieth Congress of the International Association for Analytical Psychology	６．最初と最後の頁 396-399
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 Tsuyoshi Inomata	４．巻 20
２．論文標題 “Absolute Interiority: analogy of the fairytale of Rapunzel”	５．発行年 2017年
３．雑誌名 Proceedings of the Twentieth Congress of the International Association for Analytical Psychology	６．最初と最後の頁 1116-1119
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 猪股剛	4．巻 45-6
2．論文標題 心理療法と夢とアクチュアリティ	5．発行年 2019年
3．雑誌名 精神療法	6．最初と最後の頁 48-54
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 猪股剛	4．巻 42
2．論文標題 宮田結子論文に関するコメント=心理療法の器=	5．発行年 2019年
3．雑誌名 上智大学臨床心理研究	6．最初と最後の頁 157-160
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 猪股剛	4．巻 45
2．論文標題 イニシャル・ケースの可能態	5．発行年 2018年
3．雑誌名 京都大学臨床心理事例研究	6．最初と最後の頁 85-91
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 田中康裕	4．巻 10
2．論文標題 フィリップ・K・ディックと現代の意識	5．発行年 2018年
3．雑誌名 ユング心理学研究	6．最初と最後の頁 89-110
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 宮坂敬造	4．巻 5
2．論文標題 アウトサイダー・アート／アール・ブリュットになぜ惹きつけられるのか――アウトサイダー・アート／アール・ブリュットに投射される未来について	5．発行年 2018年
3．雑誌名 国立新美術館研究紀要	6．最初と最後の頁 334-337
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 宮坂敬造	4．巻 140
2．論文標題 文化医療人類学、文化精神医学における近年の自然・文化要因の統合研究枠組みの一考察	5．発行年 2018年
3．雑誌名 哲學・人間科学特集	6．最初と最後の頁 185-227
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 猪股剛	4．巻 30
2．論文標題 かすかな移行としての心理療法-ユング心理学から見た変容-	5．発行年 2017年
3．雑誌名 日本箱庭療法学研究	6．最初と最後の頁 15-25
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 田中康裕	4．巻 29-3
2．論文標題 日本的風景と主体―古くて新しい意識のあり方について	5．発行年 2017年
3．雑誌名 箱庭療法学研究	6．最初と最後の頁 77-95
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 川嵜克哲	4．巻 3-1
2．論文標題 偏頭痛・耳鳴りを訴える女性の事例ーシャーマン的資質と遠近法	5．発行年 2017年
3．雑誌名 臨床ユング心理学研究	6．最初と最後の頁 55-83
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 宮坂敬造	4．巻 4
2．論文標題 Museo Laboratorio della MenteおよびMuseum Guggingへの訪問体験とアウトサイダー・アート省察―文化人類学の地平からの視点	5．発行年 2017年
3．雑誌名 国立新美術館研究紀要	6．最初と最後の頁 153-179
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計17件（うち招待講演　3件／うち国際学会　11件）

1．発表者名 Tsuyoshi Inomata
2．発表標題 Emptiness and Diversity: psychological inner movement in western and eastern culture
3．学会等名 The 2019 International Association for Jungian Studies Regional Conference（国際学会）
4．発表年 2019年

1．発表者名 Tsuyoshi Inomata
2．発表標題 The diversifying soul through “Handwerk (hand work)” in small garden/bonsai and sandplay
3．学会等名 25th Congress of the International Society for Sandplay Therapy（国際学会）
4．発表年 2019年

１．発表者名 Tsuyoshi Inomata
２．発表標題 The diversifying soul through otherness: Hospitality, human-animal marriage and refugee’s exodus
３．学会等名 XXI International Congress of the International Association for Analytical Psychology（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Keizo Miyasaka
２．発表標題 Cultural Anthropological Approach to New Therapeutic Movements in Transcultural Pscyhiatry
３．学会等名 International Forum ’Culture in Transition: Multicultural Counselling, Social Psychology, Cultural Anthropology & Communications Technology（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Yasuhiro Tanaka
２．発表標題 On the relationship between the sense of self and the structure of dreams examined through questionnaire research for Japanese university students (plenary session)
３．学会等名 International Association for Analytical Psychology XXI Congress（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Yasuhiro Tanaka
２．発表標題 On the depths of “Kakure Kirishitan (Hidden Christians) in comparison with Fucan Fabian’s life and thoughts
３．学会等名 International Association for Analytical Psychology XXI Congress（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 猪股剛
２．発表標題 分析と演劇におけるLehre概念-パフォーマンスとしての現実-
３．学会等名 日本ユング心理学会
４．発表年 2018年

１．発表者名 石倉敏明
２．発表標題 「朽ちる肉」への問い:「シシ」と「ムシ」から再考する東北日本の種間宇宙論
３．学会等名 日本文化人類学会
４．発表年 2018年

１．発表者名 Tsuyoshi Inomata
２．発表標題 From Imaging to thinking with analogy human-dog marriage
３．学会等名 International Conference of The International Society for Psychology as the Discipline of Interiority（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Toshiaki Ishikura
２．発表標題 Living Practice: Distilling Local Knowledge of Cohabitation
３．学会等名 International Conference Africa-Asia 'A New Axis of Knowledge' Second Edition（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 石倉敏明
２．発表標題 Climbing Visible / Invisible Mountains
３．学会等名 野根莖高山塾：藝術家三路會師論壇（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Yasuhiro Tanaka
２．発表標題 Does psychotherapy wake from a dream in the contemporary world?
３．学会等名 The 4th International Conference of the International Society for Psychology as the Discipline of Interiority（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Yasuhiro Tanaka
２．発表標題 Japanese landscape and the subject: On the old and new state of consciousness
３．学会等名 The 5th International Joint Conference of the IAJS and the IAAP（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 猪股剛
２．発表標題 トランスからウロボロスへ－境界を生きる青年の夢分析の事例－
３．学会等名 箱庭療法学会
４．発表年 2018年

１．発表者名 Yasuhiro Tanaka
２．発表標題 Hic Rhodus, Hic Salta!”: Where is “Rhodes” for Jung’s psychology?
３．学会等名 IAAP Symposium on the Statement Concerning C. G. Jung’s Writings and their Impacts on the Participation of People of Color and Indigenous Populations in Analytical Psychology（招待講演）
４．発表年 2017年

１．発表者名 猪股剛
２．発表標題 物語が示す心理学の弁証法
３．学会等名 日本ユング心理学会
４．発表年 2017年

１．発表者名 猪股剛
２．発表標題 物語が示す心理学の弁証法
３．学会等名 日本ユング心理学会
４．発表年 2017年

〔図書〕　計8件

１．著者名 石倉敏明・奥野克巳・猪股剛ほか	４．発行年 2018年
２．出版社 以文社	５．総ページ数 224
３．書名 レキシコン現代人類学	

1．著者名 C.G.Jung（解題：猪股剛228-251頁）	4．発行年 2019年
2．出版社 創元社	5．総ページ数 320
3．書名 分析心理学セミナー1925　（解題：猪股剛228-251頁）	

1．著者名 C.G.Jung(「心理学史、表と裏の世界、そしてイニシエーション」猪股剛)	4．発行年 2020年
2．出版社 創元社	5．総ページ数 325
3．書名 近代心理学の歴史	

1．著者名 Motoyuki Shitamichi. Taro Yasuno, Toshiaki Ishikura, Fuminori Nousaku, Hiroyuki Hattori	4．発行年 2019年
2．出版社 Case Publishing	5．総ページ数 158
3．書名 Cosmo-Eggs |宇宙の卵（Catalog of the 58th Venice Biennale International Art Exhibition Japan Pavilion: English edition）	

1．著者名 Yasuhiro Tanaka	4．発行年 2018年
2．出版社 Routledge	5．総ページ数 284
3．書名 Research in Analytical Psychology: Applications from Scientific, Historical, and Cross-Cultural Research "The loss of psychological infra-structure in the “ubiquitous” self-Consciousness of our times"	

1．著者名 川嵜克哲	4．発行年 2018年
2．出版社 福村出版	5．総ページ数 330
3．書名 風景構成法の文法と解釈	

1．著者名 Yasuhiro Tanaka	4．発行年 2017年
2．出版社 Routledge	5．総ページ数 245
3．書名 Psychology as the Discipline of Interiority: "The Psychological Difference" in the Work of Wolfgang Giegerich	

1．著者名 石倉敏明	4．発行年 2017年
2．出版社 青土社	5．総ページ数 325
3．書名 『現代思想』45(4)(総特集 人類学の時代)「社会の内なる野生 ： 宇宙論の境界を更新するイヌとオオカミ」	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

6．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	宮坂　敬造 (Miyasaka Keizo) (40135645)	東京通信大学・情報マネジメント学部・教授 (32826)	
研究分担者	川嵜　克哲 (Kawasaki Yoshiaki) (40243000)	学習院大学・文学部・教授 (32606)	

６．研究組織（つづき）

	氏名 （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	田中　康裕 (Tanaka Yasuhiro) (40338596)	京都大学・教育学研究科・准教授 (14301)	
研究分担者	石倉　敏明 (Ishikura Toshiaki) (90649310)	秋田公立美術大学・大学院・准教授 (21403)	